

○次回活動のご案内; **10月24日(日)**9時45分森林館駐車場集合。主な活動メニューは景観管理林・巨木林間伐木選木、竹林整備、きのこ狩り・試食。携行品; 鋸、鉋、あればヘルメット、弁当、水筒、お椀。

○忘年会のご案内; **12月4日(土) 18:00**、於国民宿舎「清和」、会費宿泊込み約1万円、懇親会のみ約5千円。申込みは上記メールアドレス又は電話宛10月24日迄に、活動日受付可。申込み後の取消は11月29日17時迄に。

なお忘年会不参加で12月4日(土)、12月5日(日)の活動のみに参加も可能。

○「ちば里山センター」設立; 9月17日、県内の里山活動団体間のネットワーク組織として同センターが設立されました。当会もその設立発起人に加わっており、初代会長に当会の坂本彌代表が就任しました。(次頁お知らせ参照)

○豊英島小動物調査レポート; 廣瀬(旧姓中島)可恵会員から貴重な調査レポートの提出がありましたので本誌3・4頁に添付します。小動物に限らず野鳥、植生、きのこなどについても今後も調査継続しデータを蓄積します。ご協力お願いします。

## かつどうのきろく

9月12日(日) 晴 参加会員17名、森林研究センター小平室長、高橋、県緑化支援室田沢。

○きのこ狩り; 先ずは島一面に乱立するきのこを全員で採取し作業終了後小平博士のきのこ解説。タマゴタケ、アカヤマドリタケ、アメリカイロガワリ、シロオニタケ、ベニイグチなど10種類中可食はタマゴタケとアカヤマドリタケの2種類、早速昼の食材に。(詳細は次頁村野レポート)

○案内板の完成と除幕式; 8月木工作业で残った案内板の完成作業と支柱とのドッキング、昼食後全員立会いの除幕式と記念の集合写真。

○テーブルの表面加工仕上げ; 8月未完成の表面加工仕上げ完成し、昼食は新テーブルで。

○ホテイ岬観察路整備; ホテイ岬への歩行を妨げる樹木・マダケの伐採と倒木の処理。2・3本の倒木を残し開通。



↑タマゴタケ



↑観察路整備

○里山巡回指導; 里山巡回指導チーム活動視察と指導。指導事項は次頁。



↑除幕式後の案内板を前に記念撮影

穏やかな秋晴れ、森一面のきのここと山川(?)のご馳走に恵まれ、快い汗を流し、楽しい一日でした。小平先生にはきのこ解説から調理指導まで有難うございました。調理班の村野さん久我さんご馳走様。参加の皆様お疲れ様でした。

## 里山巡回指導

指導チーム: 森林研究センター小平室長、高橋上席研究員、県緑化支援室田沢上席林業専門技術員

指導事項: 「会の活動の現状は閉鎖的である。地域と連携し、里山整備の拠点、人づくりの拠点の役割を担えるよう、そして子供たちや老人たちとのつながりのある活動が出来るよう工夫が必要」との指摘に対し、当会は「吊り橋の問題もあり今年度の活動計画にある地域住民参加イベントの検討も中止するよう県当局の指導を受けていて、地域との連携は現状では難しい」と現況を説明。これに対し「出来ることから徐々に実績を積重ね、価値を高めてゆく。セラピー実験もそのステップとして大きな意味がある。イベントも出来ることから始める。入口に看板をかけて活動を認知してもらうことも意味がある」との指導を受けた。

## お知らせ

○ちば里山センター設立趣旨と事業計画

里山条例の具体化の一環。目的は里山活動団体への支援と、県民、企業等の里山および里山活動への理解と関心を深め、里山整備等の活動への積極的な参加を促進すること。計画している事業は、団体間のネットワーク構築、里山に関するイベントの開催、同相談、同調査研究、同情報の発信(里山新聞発行)、同提言、里山整備に関する技術指導や指導者の育成等(ちば里山センター規約より)。業務開始は10月1日の予定。

○チェーンソー及び刈払い機講習会(年内)

チェーンソー: 9月27・28日、11月15・16日、刈払い機: 10月15日、12月6日(いずれも予定)

林業・木材製造業労働災害防止協会千葉県支部(東金市) 電話0475-53-2611にお問い合わせ下さい。

## 9/12豊英島はきのこいっばい

寄稿 村野真砂子会員

9月12日豊英島; 「何かが起こっている、この島で・・・」そんな予感から始まり。つり橋を渡り島へ一歩踏み入れた足元には赤い笠、目を落とした先には20cm以上もある茶色の笠、「キヤー!」、「スゴイ!」、「ワー!」。奇声ばかりで言葉がない。赤い笠のタマゴタケは以前千葉中央博物館の常設ポスターで目に焼きつき、最初に名前を覚えたきのこのです。まさかの突然の出会いは衝撃でした。

午前中はきのこ狩り、台風18号前後の恵みの雨の影響か? 島は一面のきのこ。明るい赤に濃い赤、黄、白、茶と色も形も大きさも様々のきのこが広場に集合。きのこの山は分類され、午後の最後に小平先生のきのこ教室。タマゴタケの生育には森の明るさが重要とのこと、森の整備の効果か? 勉強会の後に無残にも捨てられた沢山のドクきのこさんたちごめんなさい。

昼食は揚げたての天麩羅、主役はタマゴタケ。見た目にグロテスクなアカヤドリタケも食感シコシコでイケル。小平先生川の漁獲の若鮎、真鍋農園の野菜も揚げ、食卓いっばいの天麩羅、定番のトン汁も味良く好評。

昼食後長村さんのセンス溢れる案内板の除幕式と記念撮影。多数のカメラが並び、どの写真が採用になるかうご期待。午後の作業は「ほてい岬」観察路の整備、四苦八苦4人がかりで切り倒したウラジロガシで何とシーソーゲーム、そばに垂れた蔓でターザン体験、?年前の子供心に帰りました。1mの長さに玉切りした木は階段に変身、力作がまた一つ増えました。豊英島「千年の森」を訪れるたびに新たな発見があり「森の精」をいただいています。

廣瀬(中島)可恵さんご結婚おめでとう。千年の森にもお二人揃っておいで下さい。

## きのこ考

寄稿 五十嵐弘次会員

吊橋を渡り終えて豊英島に上陸すると、入口ではきのこの歓迎カーニバル。タマゴタケ・アカヤドリタケなどきのこの華やかに、足の踏み場所もない程の出迎えに圧倒されて、歩行をたじろぐ程。天才の業でも不可能に近い、色彩と造形の神秘の生物、自然が、神か、誰が何んのために、一体何を演出しようと、あの色彩と形状をあの菌糸より分化・進化させたのか。それだけではない。組成・作用までもそれぞれの個性を備え持って代々伝えているのだ。生物の生成を遡って生命の源をたぐって行ったら、ひょっとしたらきのこの菌糸より動物(人間)へ派生した祖先につき当たるかも知れない。人間の食性・嗜好で有用・無用を判別されて来たが、この狭い豊英島の一隅に自生する菌種が、驚異的な造形と色彩と、超自然的なタマゴタケ・アカヤドリタケ(いずれも天麩羅美味)。その反面純白で清楚、完璧な迄のプロポーションと優雅な形状の造形の正体は「毒」。最後に選別し取り残された種々雑多なきのこ、若しこれがマツタケやトリフであったならと涙を吞んで次世代には別種に生まれ変えられるならと無慈悲にも落ち葉と共に地中に帰す。

## 豊英島小動物調査

### 【はじめに】

豊英島は千葉県君津市清和県民の森の敷地内に存在し、周囲はダムに囲まれている。豊英島における千年の森をつくる会(以下 会)の活動の中心は森林の手入れと有効利用であるが、この場所の価値を調べ、会の活動が森林にどのような影響を与えるのかを把握するために動植物の調査を行うことにした。

本稿は動物調査の予備実験として、4月～5月にかけて仕掛けた昆虫トラップ実験の結果を報告する。

### 【方法】

日向(コナラ林伐採跡)、日陰(ほこら山麓)、日陰の斜面(ほこら山)の3箇所に、ガラスのビン、(インスタントコーヒーのビン)茶缶、プラスチック(自動小型玩具販売用のケース)を埋めた。地面と容器の口の高さが一致するようにし、埋めた場所が分かるように竹や枝を立て、ビニールテープを巻いた。

### 【結果】

<表1>

<調査箇所と小動物の種類・匹数>

単位:匹

	センコガネ	センコガネ(子)	シデムシ	ハナカミキリ	オサムシ	ゾウムシ	ゴミムシ
日向	19	108	13	9	7	1	
日陰							
斜面	2	1	1	1	2		1

表1より日向において最も多くの昆虫を捕獲することができた。また、種類数では日向と斜面が同じになった。日陰ではオオムカデが1匹捕獲できたものの、昆虫は捕獲できなかった。

<表2>

<調査箇所と小動物のパーツ>

単位:個

パーツ	センコガネ		センコガネ(子)		シデムシ		ハナカミキリ		オサムシ		ゾウムシ		ゴミムシ	
	頭部	腹部	頭部	腹部	頭部	腹部	頭部	腹部	頭部	腹部	頭部	腹部	頭部	腹部
日向	10	11	17	6	0	1	1	0	0	1				
日陰														
斜面	1	2							2	7			1	1

<表3>

<小動物のパーツから推測した個体数>

単位:匹

	センコガネ	センコガネ(子)	シデムシ	ハナカミキリ	オサムシ	ゾウムシ	ゴミムシ
日向	10	6	0	0	0		1
日陰							
斜面	1				2		1

表 2 は昆虫の体が分解された状態で捕獲されたものの種類と数を表している。分解されたものについても日向が最も多い捕獲数となった。同種内で頭部と腹部を 1 対1で組み合わせ、これを 1 個体として数えたものが表3である。

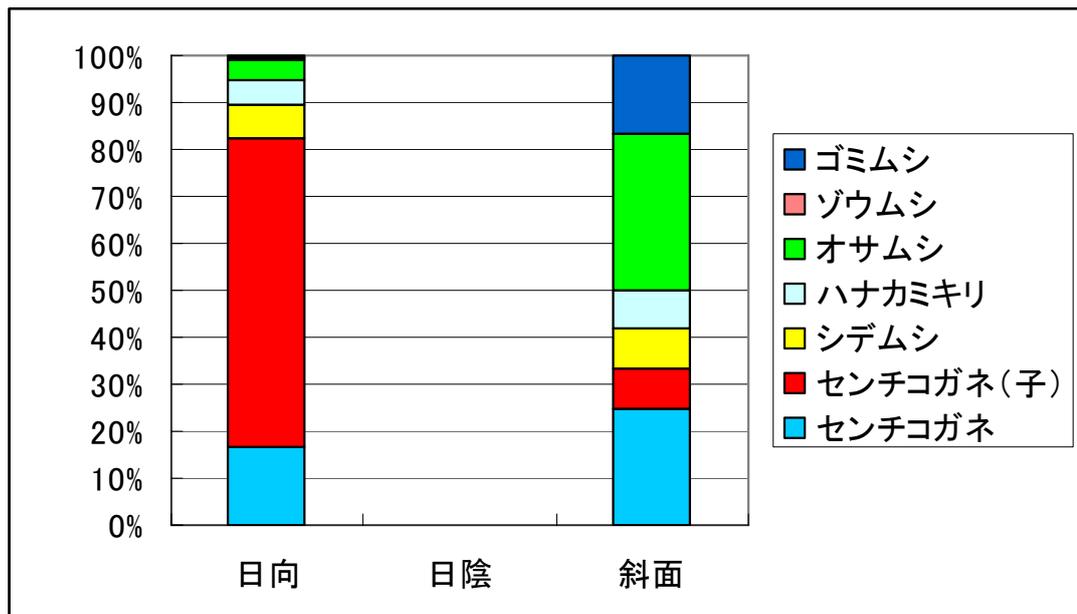
<表4>

<調査箇所ごとの昆虫数の合計>

単位：匹

	センチコガネ	センチコガネ(子)	シデムシ	ハナカミキリ	オサムシ	ゾウムシ	ゴミムシ
日向	29	114	13	9	7	1	1
日陰							
斜面	3	1	1	1	4		2

表4は各調査場所で捕獲した昆虫の個体数とパーツから推測した個体数を合計したものである。この結果より、圧倒的に日向での捕獲数が多いことがわかる。



**[考 察]**

今回の予備実験では、日向において最も多くの昆虫が捕獲できた。日陰は 1 匹も昆虫が捕獲できなかったが、原因は不明である。

容器別ではビンでのみ採集できた。缶はサビなどにより昆虫がうまく保存できなかったと思われる。プラスチックは深さが無いため採集できなかったと思われる。

本実験方法は短期(1 晩くらい)で行うには適しているが、1 ヶ月という長い時間で行うと、雨や落ち葉が溜まること、大量の昆虫を死亡させてしまうことから不適切であるといえる。本会の活動のように1~2 ヶ月に 1 度の活動で調査を行うには、目撃生物の調査などその日に終わる方法が相応しい。